

健診結果の見方 (標準項目のみ)

身体計測	身長/体重/BMI	身長や体重を計測することで、肥満度を表す指標として用いられるBMI(身長に見合った体重かどうかを判定する数値)を調べます。体重(kg)÷身長(m)÷身長(m)で算出します。	心電図	心臓の筋肉に流れる電流を体表面から記録する検査で、電流の流れ具合によって、心臓の異常がないかがわかります。		
視力		0.9未満の場合は要注意です。	胸部X線	肺や気管、心臓、大動脈などの異常がないかを調べます。		
聴力		低音および高音が聞こえるかを調べます。	上部消化管	胃および食道・十二指腸の一部を映し出し、臓器の形の変化や異常を調べます。		
血圧		心臓が血液を送り出す時に血管に加わる圧力を測ります。高血圧は動脈硬化を引き起こし、悪化させるため注意が必要です。	内視鏡	口から内視鏡を挿入して観察し、がんなどの病気の発見に有用です。		
呼吸機能	%肺活量	性別、年齢、身長から算出された予測肺活量に対する数値です。79%以下では肺のふくらみが悪いことを意味します。	腹部超音波	肝臓、脾臓、腎臓、胆のう、脾臓の大きさや腫瘍(できもの)等を調べます。		
	1秒率	最大に息を吸い込んでから一気に吐き出すとき、最初の1秒間に何%の息を吐きだせるかを調べます。		細胞診検査により子宮頸がんの早期発見につながり、また腫瘍などの感染がわかります。		
血液	脂質系	HDLコレステロール	善玉コレステロールと呼ばれ、血液中の悪玉コレステロールを回収します。少ない動脈硬化の危険性が高くなります。	運用	判定	推定病変
		Non-HDLコレステロール	すべての動脈硬化を引きおこすコレステロールを表し、動脈硬化のリスクを総合的に管理できる指標です。	異常なし	NILM	非腫瘍性所見、炎症
		LDLコレステロール	悪玉コレステロールと呼ばれ、多すぎると血管壁に蓄積して動脈硬化を進行させ、心筋梗塞や脳梗塞を起こす危険性を高めます。	要精密検査(HPV検査による判定が望ましい)	ASC-US	軽度扁平上皮内病変疑い
		中性脂肪(TG)	糖質がエネルギーとして脂肪に変化したもので、数値が高いと動脈硬化を進行させ、低いと別の病気が疑われます。食事内容や食後時間に影響されやすい項目です。	ASC-H	高度扁平上皮内病変疑い	
	糖代謝系	血糖	ブドウ糖がエネルギー源として適切に利用されているかがわかり、数値が高い場合は糖尿病やその他の病気が疑われます。	要精密検査(コルポ、生検)	LSIL	HPV感染、軽度異形成あるいはCIN1
		尿糖	糖尿病やその他の要因で血糖値が上昇すると、尿にも糖が漏れ出でます。		HSIL	中等度異形成、高度異形成、上皮内癌あるいはCIN2,3
		HbA1c(NGSP)	過去1、2ヶ月の血糖の平均的な状態を反映します。当日の食事や運動など短期間の血糖値の影響をうけません。		SCC	扁平上皮癌
	尿酸(UA)	尿酸の産生・排泄のバランスがとれているかを調べます。高い状態が続くと、痛風発作や尿路結石の原因になります。			AGC	腺異型または、腺癌疑い
	肝臓系	AST(GOT)	心臓、筋肉、肝臓に多く存在する酵素で、数値が高い場合は病気が疑われます。		AIS	上皮内腺癌
		ALT(GPT)	肝臓に多く存在する酵素で、数値が高い場合は病気が疑われます。		Adenocarcinoma	腺癌
		γ-GT(γ-GTP)	肝臓や胆道に異常があると血液中の数値が上昇します。		要精密検査(病変検索)	Other malig. その他の悪性腫瘍
		総蛋白	血液中の総たんぱくの量を表し、低い場合も高い場合もそれぞれ病気が疑われます。			
		アルブミン	アルブミンは肝臓で合成され、肝臓障害、栄養不足、ネフローゼ症候群などで減少します。			
血液	感染症系	HBs抗原	陽性の場合は、現在B型肝炎ウイルスに感染していると考えられます。	乳房	X線撮影によるマンモグラフィ検査、もしくは乳腺超音波検査にて、乳房の異常がないかを調べます。	
		HCV抗体	陽性の場合は、現在C型肝炎ウイルスに感染している可能性が高いと判定します。	内科診察	視診、触診、聴打診などにより、各種検査では判断しにくい身体の異常を調べます。	
		CRP	血液中に増加する急性反応物質の1つで、細菌・ウイルス感染、炎症を調べます。	眼底	瞳孔の奥にある眼底を眼底カメラで撮影し、血管、網膜、視神経等に着目し、それが正常か否かを確認します。	
	腎臓系	クレアチニン(Cr)	アミノ酸の一種であるクレアチニンが代謝されたあと老廃物で、数値が高いと腎臓の機能が低下していることを意味します。	眼圧	眼内液(房水)の圧力を調べます。低い場合は網膜剥離や外傷など、高い場合は緑内障などが疑われます。	
		eGFR	クレアチニン値を性別・年齢で補正して算出し、数値が低いと腎臓機能の低下を意味します。			
	血球系	白血球(WBC)	細菌などから体を守る働きをし、低い場合も高い場合もそれぞれ病気が疑われます。			
		赤血球(RBC)	赤血球の数が多すぎれば多血症、少なすぎれば貧血など、それぞれ病気が疑われます。			
		血色素量(Hb)	酸素の運搬役を果たし、数値が低い場合は貧血が考えられます。数値が高い場合は多血症や脱水症が疑われます。			
		ヘマトクリット(Ht)	血液全体に占める赤血球の割合で、低い場合も高い場合もそれぞれ病気が疑われます。			
		MCV	MCVは赤血球の体積を表します。低い場合も高い場合もそれぞれ病気が疑われます。			
		MCH	赤血球に含まれる血色素量を表します。			
		MCHC	赤血球体積に対する血色素量の割合を示します。			
		血小板数(PLT)	出血を止める役割を果たし、低い場合も高い場合もそれぞれ病気が疑われます。			
便	便潜血	便に血が混ざっているかを調べます。陽性(+)の場合は各病気が考えられるので、区別するためには検査が必要です。				
尿	蛋白	腎臓の機能が低下すると尿蛋白が増えます。				
	潜血	尿に赤血球が混入していないかを確認します。				

子宮頸部細胞診

(ベセダシステム2001準拠
子宮頸部細胞診報告様式 参考)

乳房

内科診察

眼底

眼圧

定期的に健康診断を受けましょう

自覚症状が現れにくい病気は少なくありません。だからこそ定期的な健診で健康状態をしっかりチェック。

生活習慣病の発症・重症化予防

自分の体をしっかり知るのが健康維持の第一歩です。

